

アイブライスとは

ワイヤーロープの端に輪（アイ）を作り、荷掛け用ロープや台付け用ロープを作るための技法です。

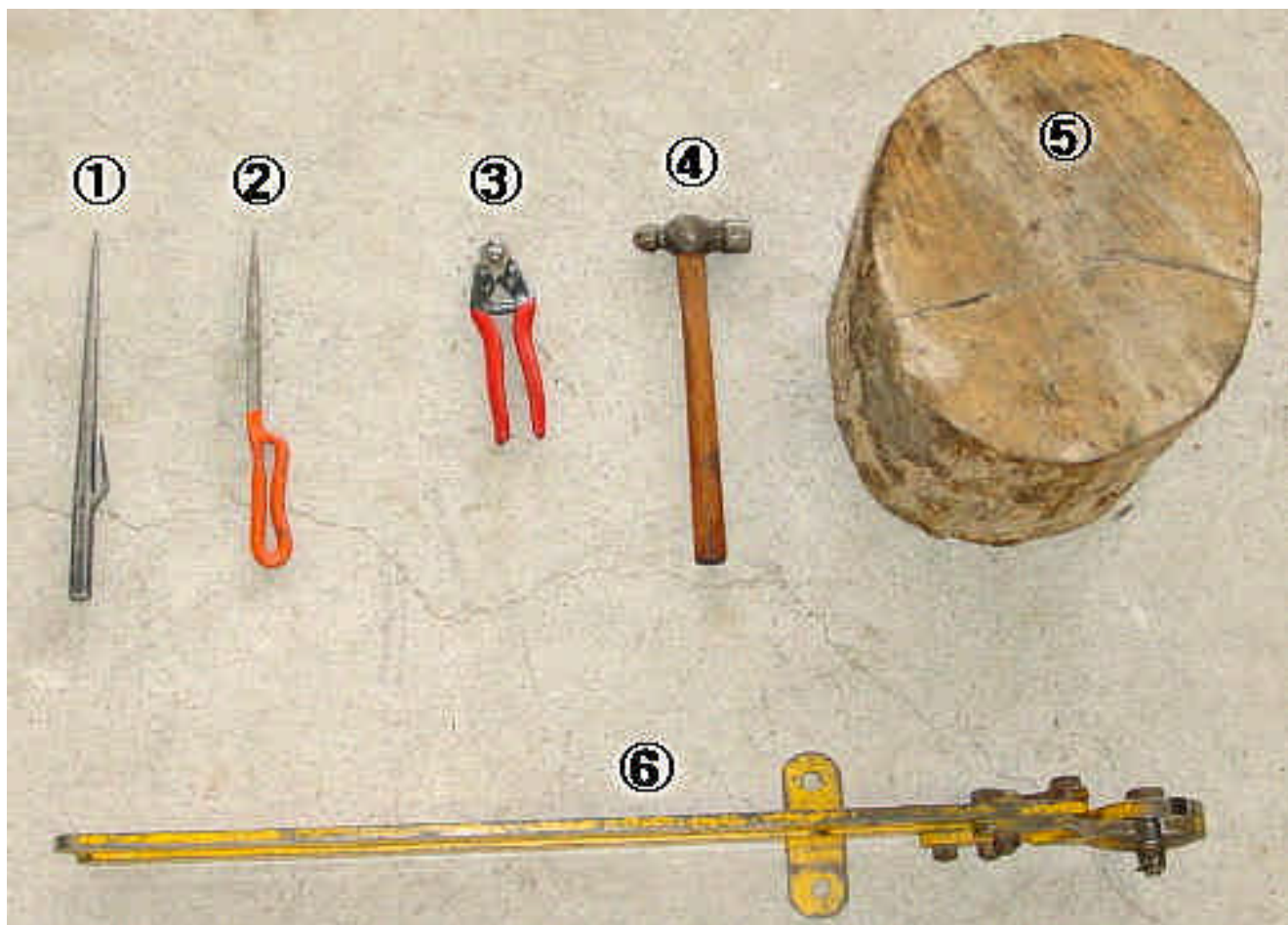
ワイヤーロープを構成しているストランド（通常6本）を、互いに挟み込んだり組み合わせたりします。

作業手順を覚えるのと同時に、手の使い方も覚えることが、早く上達するための近道です。

[工具類]

- ① シノ（丸棒タイプ）
- ② シノ（溝付きタイプ）
- ③ スtringカッター
- ④ ハンマー
- ⑤ 作業台（切株）
- ⑥ ワイヤークッター

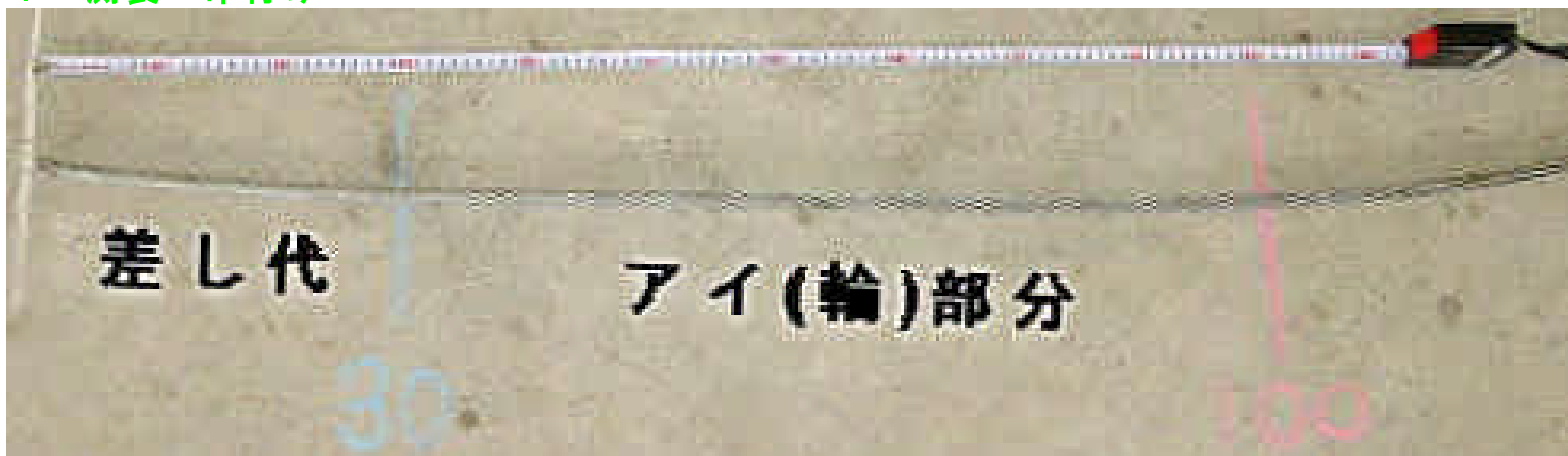
※安全のため、必ず皮手袋を着用します。曲げたストランドが顔面を直撃することもあるので、丈夫な顔面保護具も必要です。



I フレミッシュ加工

ワイヤーロープを構成するストランド6本を3本ずつに分け、アイ（輪）の部分でよりあわせる前処理法です。どのアイブライス法を行う場合も、フレミッシュ加工をしておけば、丈夫で抜けにくくなります。

1 測長・印付け



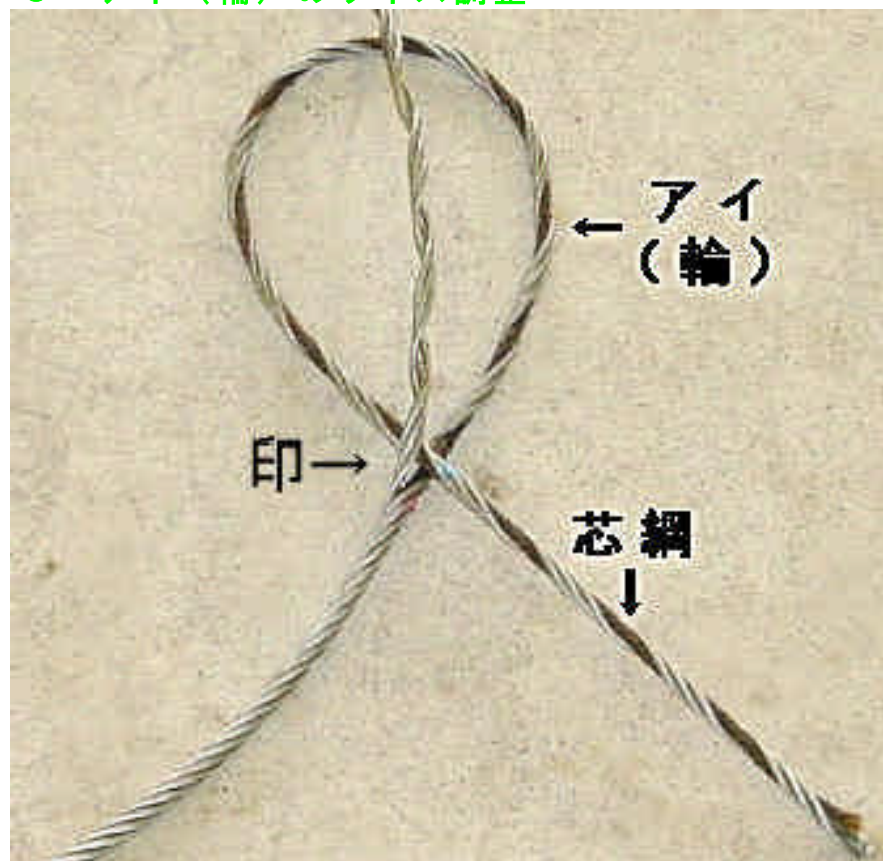
直径10mm程度のワイヤーロープの場合、差し代（細工代）は30cm、アイ（輪）部分の長さは70cm、合計1m程度が適当です。それぞれの位置にチョークなどで印を付けましょう。

2 ワイヤロープの分割



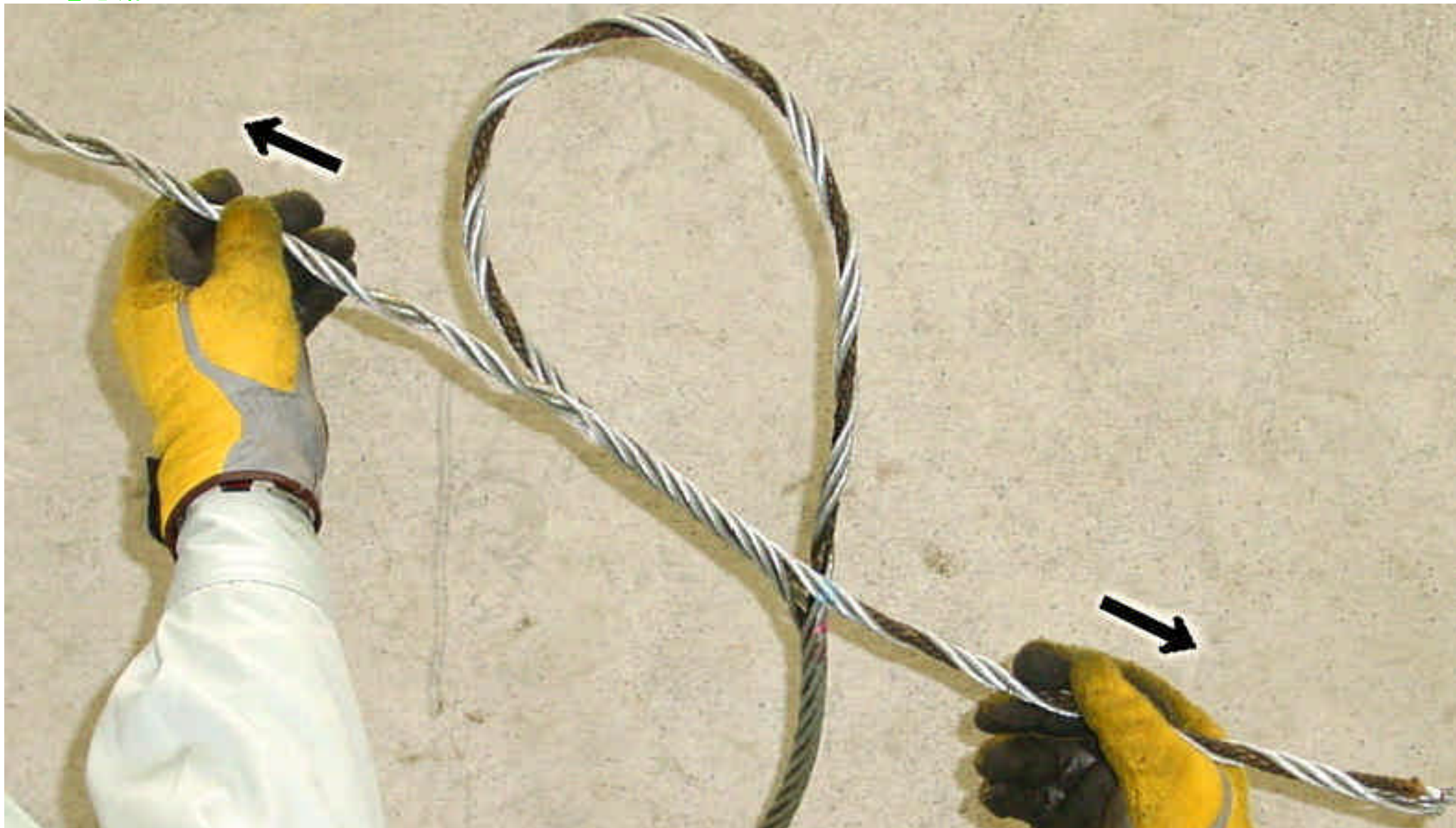
ストランド6本を、1mまで3本ずつ分割する。ストランドを1本ずつ解いてはいけません。

3 アイ（輪）のサイズ調整



芯網のある方を丸く曲げて、分岐点に挟む。分岐点でチョーク印を合わせるようにする。

4 巻き始め



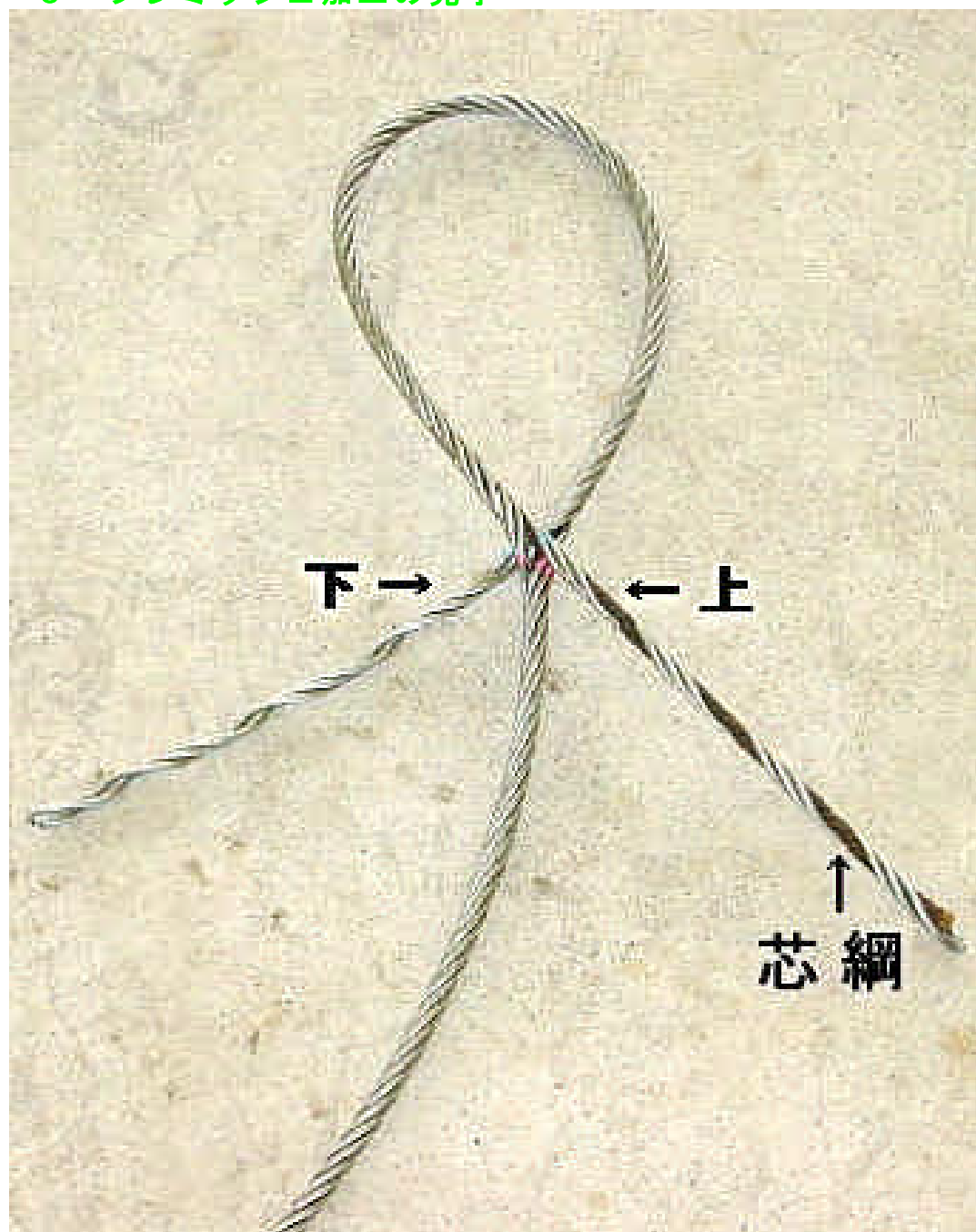
芯網のあるほうに、もう一方を巻き付ける。芯網を隠すように巻くのがポイント。
1, 2回巻いたら、図のように持って少し引っ張ると、うまく締まる。ただし強すぎると形が崩れるので注意。

5 巻き付け



さらにストランド同士を巻き付けていく。
アイ（輪）にストランドを通すときは、ストランドの先端ではなく、根本から通すのがポイント。

6 フレミッシュ加工の完了



アイ（輪）の部分をよく観察し、形崩れしたり、隙間から芯網が見えていたらやり直し。
中央結合部分のストランドの上下関係に注意。
（図のように芯網のある方が右上）